債券・為替
ウィークリーレポート

カナダ

ブラジル

メキシコ

オーストラリア

ニュージーランド

ノルウェー

南アフリカ

インドネシア

インド

Asset Management One
アセットマネジメントOne

商 号 等 ：アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

市場概要・見通し（カナダ、ブラジル、メキシコ）

国（地域）	格付（※1）	債券（※2） 11/15 （11/8との比較）	為替（対円） 11/15 （11/8との比較）	経済成長率 前年比 （※3）	政策金利 先週末	先週の動向	今週の見通し
		今後の見通し（※4）	今後の見通し（※5）	景気の方向性（※6）	方向性（※7）		
カナダ	AAA	1.48% （▲0.10）	82.28円 （▲0.38%）	+1.6% 2019年2Q	1.75%	発表された景況感指数が前月比で改善する一方で、中古住宅販売件数は市場予想を下回る内容。米中貿易協議への不透明感がやや後退するものの、米国の国債利回りの動きにつれて国債利回りは低下。カナダドルは対円で下落。	製造業売上高やCPI（消費者物価指数）、小売売上高などが発表予定。米中貿易協議の動きが注目される中、年末商戦への期待も徐々に高まることから、債券・為替市場はともに現状水準での一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	⇨ 金利横ばい	⇨	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ブラジル	BB-	5.72% （+0.07）	25.93円 （▲1.13%）	+1.0% 2019年2Q	5.00%	発表された小売売上高は市場予想を上回る内容。前週のルーラ元大統領の釈放判決により政治経済改革に支障が出るとの懸念や、中銀の緩和策に伴う金利の訴求力低下などにより、レアルは対円で下落。国債利回りは上昇。	登録雇用創出合計などが発表予定。経済指標に力強さが欠け、政治経済の改革進展が期待しづらい環境下で、足元の金利水準は資金流入を促すとは考えにくいため、レアルの上値が重い動きを予想。
	Ba2	⇨ 金利横ばい	⇨	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		
メキシコ	A-	6.76% （+0.03）	5.67円 （▲0.86%）	-0.5% 2019年3Q	7.50%	発表された鉱工業生産が市場予想を下回る一方で、登録雇用創出合計は前月比で改善する内容。中銀は利下げを実施する中、追加緩和の可能性を示唆。国債利回りは上昇。メキシコペソは対円で下落。	特に注目すべき経済指標の発表はなし。USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）の動きも注目され、中銀の追加利下げの可能性が意識される中、金利水準については低下基調となる展開を予想。
	A3	↘ 金利低下	⇨	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利 、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

市場概要・見通し（オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェー）

国（地域）	格付（※1）	債券（※2） 11/15（11/8との比較）	為替（対円） 11/15（11/8との比較）	経済成長率 前年比（※3）	政策金利 先週末	先週の動向	今週の見通し
		今後の見通し（※4）	今後の見通し（※5）	景気の方向性（※6）	方向性（※7）		
オーストラリア	AAA	1.16%（▲0.13）	74.19円（▲1.00%）	+1.4% 2018年4Q	0.75%	発表された雇用者数が前月比で17カ月ぶりにマイナスとなり、失業率が上昇するなど雇用環境悪化への懸念が台頭する環境。中国の固定資産投資などが市場予想を下回る中、豪ドルは対円で下落。国債利回りは低下。	景気先行指数や製造業PMI（購買担当者景気指数）などが発表予定。先週発表された雇用統計から追加緩和観測が高まりやすく、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	⇨ 金利横ばい	⇨	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		
ニュージーランド	AA+	1.40%（+0.02）	69.68円（+0.79%）	+2.1% 2018年4Q	1.00%	発表された住宅売上高は前年比で悪化する一方で、製造業PMIは前月比で改善する内容。中銀が市場予想に反して政策金利を据え置く中、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは小幅上昇。	特に注目すべき経済指標の発表はなし。引き続き、景況感の改善の兆しを探る状況で、中銀はハト派姿勢を維持するとみられる中、債券・為替市場はともに現状水準での一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	⇨ 金利横ばい	⇨	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		
ノルウェー	AAA	1.47%（▲0.13）	11.96円（▲0.05%）	+1.3% 2019年3Q	1.50%	発表されたGDP（国内総生産）が前期比で鈍化する一方で、貿易収支は前月比で改善。原油価格が上値の重い推移となる中、ノルウェークローネは対円で下落。米国を中心に世界的に金利が低下する中、国債利回りは低下。	消費者信頼感などが発表予定。引き続き、欧米を中心とした金利動向や米中の貿易協議の進展など、海外の動向に影響を受けると考えられ、債券・為替市場はともに現状水準での一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	⇨ 金利横ばい	⇨	↗ 景気拡大	→ 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート 、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

市場概要・見通し（南アフリカ、インドネシア、インド）

国（地域）	格付（※1）	債券（※2） 11/15 （11/8との比較）	為替（対円） 11/15 （11/8との比較）	経済成長率 前年比 （※3）	政策金利 先週末	先週の動向	今週の見通し
		今後の見通し（※4）	今後の見通し（※5）	景気の方向性（※6）	方向性（※7）		
南アフリカ	BB+	7.36% （▲0.11）	7.40円 （+0.57%）	+0.9% 2019年2Q	6.50%	発表された小売売上高は市場予想を下回る一方で、鉱物生産量は市場予想を上回る内容。米国金利が反転低下基調となり、新興国からの資金流出への懸念がやや後退する環境下、ランドは対円で上昇。国債利回りは低下。	CPIなどが発表予定。中銀は政策金利を据え置くと予想されるものの、政治経済環境の底打ちが見えない中、22日には大手格付け会社の格付発表が予定され、債券・為替市場ともに値動きの激しい展開も考えられる状況。
	Baa3	⇨ 金利横ばい	⇨	→ 景気停滞	↘ 利下げ局面		
インドネシア	BBB-	6.49% （+0.06）	0.77円 （▲0.82%）	+5.0% 2018年4Q	5.00%	発表された貿易収支では、原油関連と内外需双方での減速による輸入の低迷が顕著となる内容。香港の政情不安のアジア経済への影響も懸念される中、インドネシアルピアは対円で下落。国債利回りは上昇。	特に注目すべき経済指標の発表はなし。中銀は政策金利を据え置くと予想されるものの、政治経済環境の底打ちがみえない状況で、インドネシアルピアは上値の重い展開を予想。
	Baa2	⇨ 金利横ばい	⇨	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		
インド	BBB-	6.22% （▲0.04）	1.51円 （▲1.45%）	+5.0% 2019年2Q	5.15%	発表されたCPIの伸び率は前月を上回る一方で、鉱工業生産は市場予想を大きく下回る内容。経済活動の不振に加えて、香港の政情不安の影響も懸念される中、インドルピーは対円で下落。国債利回りは低下。	特に注目すべき経済指標の発表はなし。引き続き、金融緩和の累積的な効果や法人税減税の効果などによる景気底打ちの兆しを探る環境で、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Baa2	⇨ 金利横ばい	⇨	↗ 景気回復	↘ 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

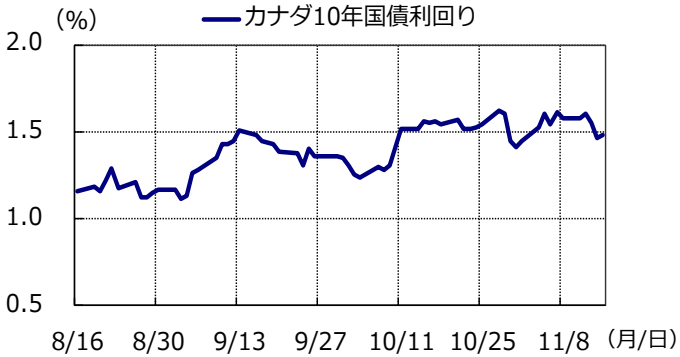
※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

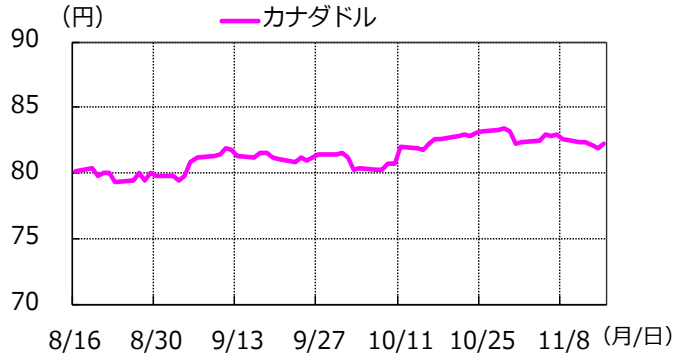
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

債券・為替（対円）の市場動向（カナダ、ブラジル、メキシコ）

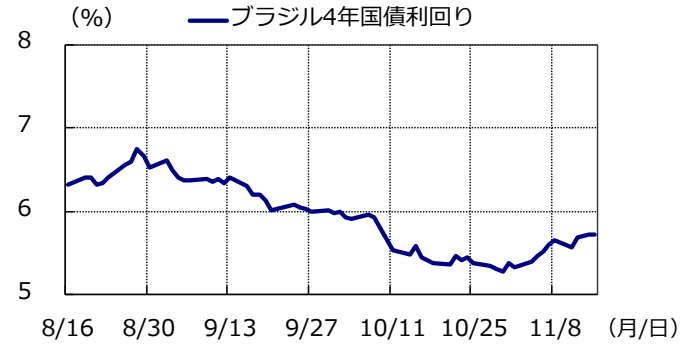
期間：2019/8/16~2019/11/15

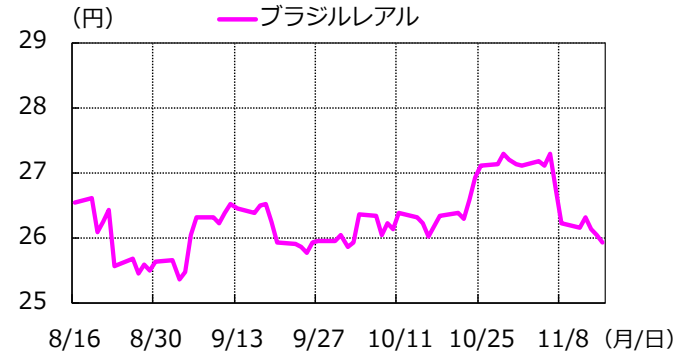
カナダ



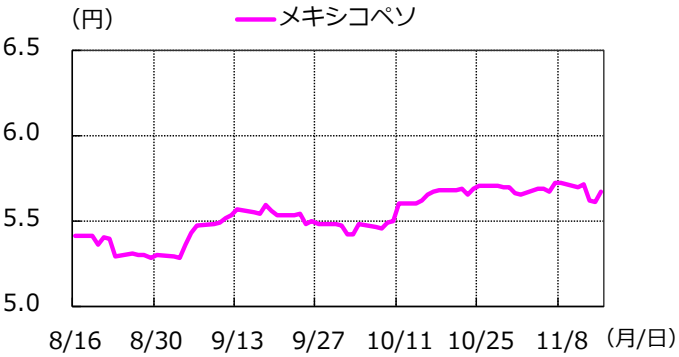


ブラジル





メキシコ



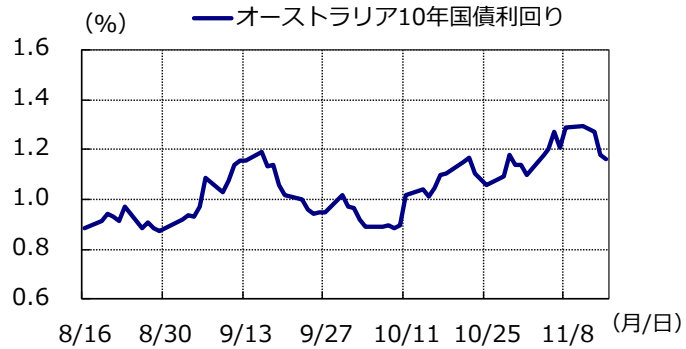
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

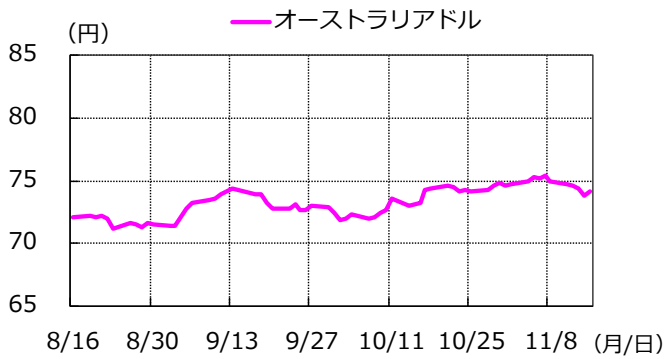
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

債券・為替（対円）の市場動向（オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェー）

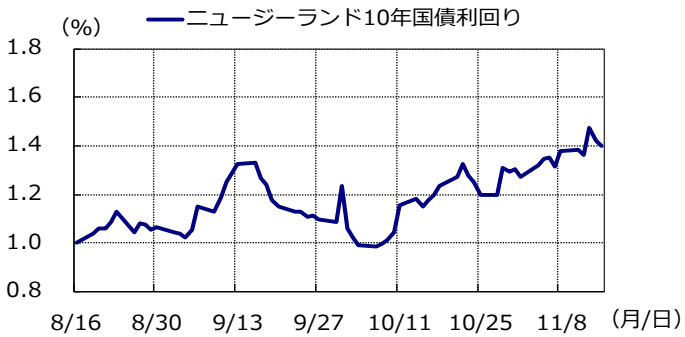
期間：2019/8/16~2019/11/15

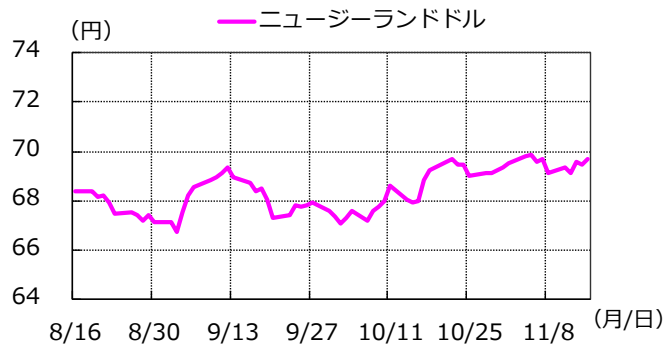
オーストラリア



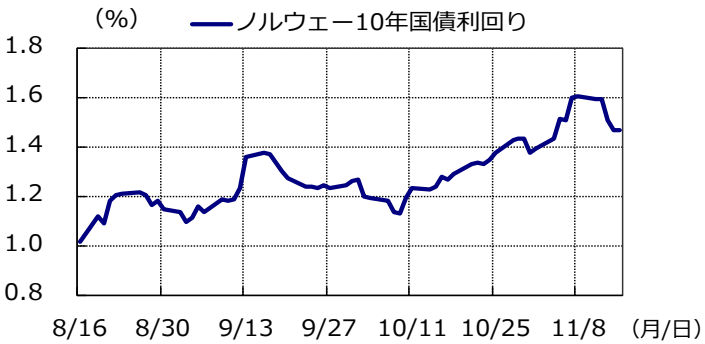


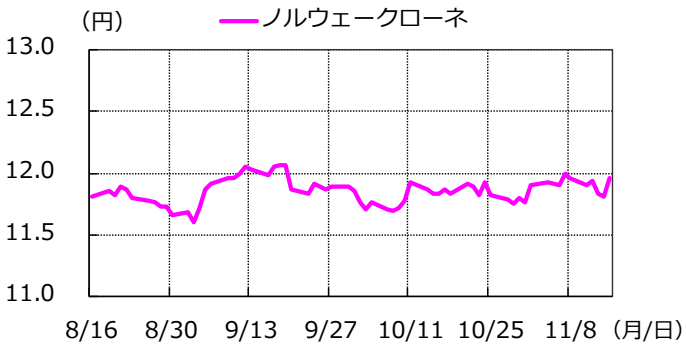
ニュージーランド





ノルウェー





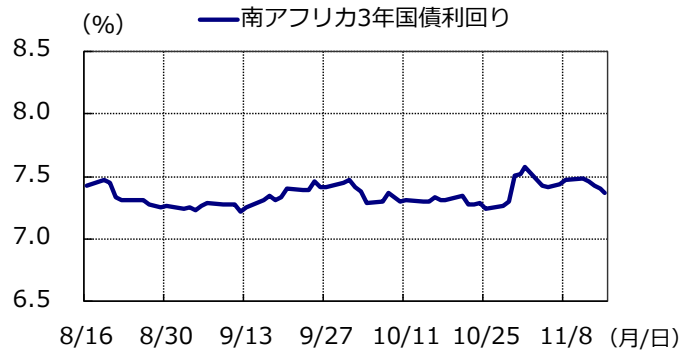
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

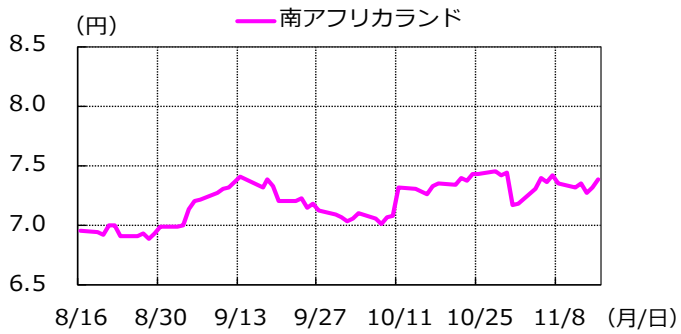
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

債券・為替（対円）の市場動向（南アフリカ、インドネシア、インド）

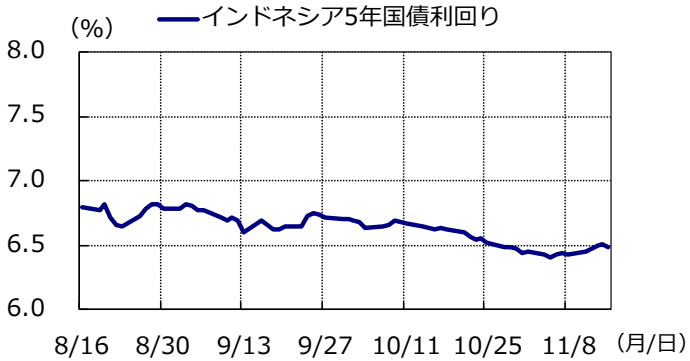
期間：2019/8/16~2019/11/15

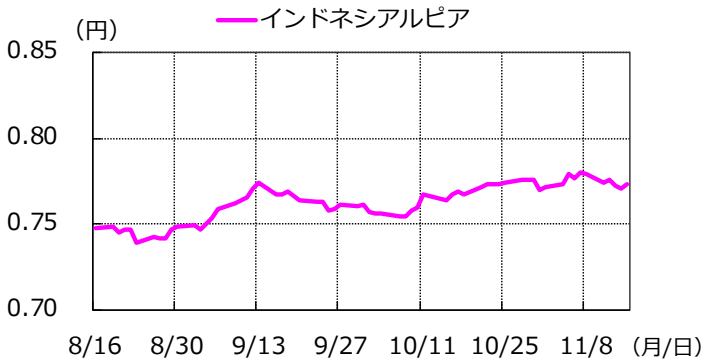
南アフリカ



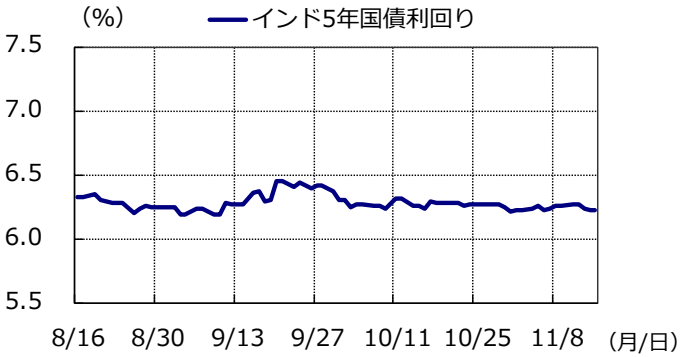


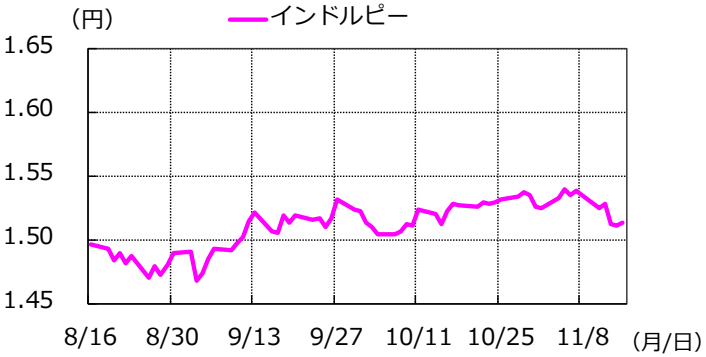
インドネシア





インド





※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。　※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

［ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。］

■お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合があるため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

●当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

●投資信託は、

1．預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2．購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3．投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。